

# 若年性および初期認知症の人と家族を支援する認知症カフェ事業

オレンジカフェ今出川

〒602-8247 京都府京都市上京区葭屋町通中立売下る北俵町 317 京都市上京区社会福祉協議会内

## 助成事業の概要

「早期診断がなされても若年性や初期認知症の人々や家族に提供されるケアが少ない」という現状を解決するための一つの方法として、認知症カフェを開催。認知症の本人及び家族が継続的にカフェを利用することで、心理的なサポートを得ながら、介護保険サービスなど社会資源に繋がることを目指した。また家族間の関係性を改善することや、本人の力を発揮する場を作ることも目的とした。

**開催時期：**平成26年4月～27年3月末。

**開催地：**上京区 まちの縁側「とねりこの家」

**内容：**毎週日曜日の10時半～15時半でカフェを開催。本人と家族が好きな時間帯（事前予約は必要）でカフェを訪れ、スタッフや他のカフェ利用者と、人としての出会いや交流を楽しんだ。また本人や家族のニーズを測り、本人同士や家族同士が話せるようなセッティングを提供し、必要に応じて専門職が家族の個別相談を受けた。特別なプログラムは設けず、本人の好きなことや得意なことを探りながら、それらが発揮されるような機会を設けた。

毎回のカフェ開催の前後にはスタッフミーティングを行い、スタッフ間の共通理解を深めた。

## 事業の成果

カフェ事業として2014年4月～翌年3月まで、週1回の「オレンジカフェ今出川」を42回開催した。

1回あたりの参加者は、本人が8名程度、家族が6～7名、スタッフは約10名であった。1年間の延べ参加人数は本人323人、家族は266人に上った。またカフェとは別に「家族会」を3回開催し、家族同士の交流と親睦をはかり、多数の参加者から好評を博した。

カフェには、全国から見学希望者があり、2014年4月より2015年3月まで、66人の見学者を受け入れた。

**カフェの効果**として認知症の本人からは、「こんな楽しい所があるんやったら、この病気になって良かった」、「同じ病気の人がいるという安心感がある」、家族からは「本人が昔の穏やかな表情に戻ったのを見ることは喜び」、「本人がカフェでの社会参加に慣れて、デイにも参加するようになった」、「何かあってもカフェの仲間がいると思うだけで、日頃の不安が軽減できる」などの声が寄せられている。

スタッフにとっても、「認知症という病気を自分ごととして捉えるようになった」など、学びの効果が語られるようになった。

### NPO法人「オレンジコモンズ」の設立

2014年4月に、安定した事業継続への強い要望に応じて、NPO法人「オレンジコモンズ」の設立にこぎつけた。これにより、責任主体・財政の明確化ができ、各種事業助成金への応募も容易になった。

### 「京都認知症カフェ連絡会」の設立

京都府下のカフェに呼びかけて、2014年6月に設立、参加している。年2回の情報交換会で、課題や成果を持ちより、カフェの事業内容の向上

に研鑽を積んでいる。

### スタッフ経験者、見学者の地元でのカフェ設立

「オレンジカフェ今出川」に参加したスタッフ 2 名がそれぞれ地元の津市 (2014/6) と伏見区 (2014/11) でカフェの開設にこぎつけた。また、見学者がその後、「オレンジカフェ今出川」に感銘を受けて、地元でカフェを開設した数は把握しているだけで 4 名に上り、(大分県中津市、由布市、向日市、宝塚市 (2015 年 5 月予定)、交流、情報交換を行っている。

### 『認知症カフェハンドブック』の編集・出版

今日の認知症カフェのモデルとなったオランダ、イギリスのカフェの「開き方」を紹介し、日本において認知症カフェを開くためのヒントを盛り込んだ。

## 成果の広報、公表

平成 26 年度 京都地域包括ケア推進団等交付金事業 発表会 ポスター発表

## 今後の展開

今年度も継続して事業が実施できたことにより、認知症カフェという場所が認知症の本人と家族にとって有益な場所であることや、カフェに関わる人々にとって学びの場所となること、新たなケアのあり方を模索できる可能性を秘めた場所であることが分かった。同時に、現在のスタイルで運営していくには、スペースや人材、予算の運用についての課題も多く、更なる実践を重ねながら継続可能なスタイルについて再検討する必要がある。再検討の一助として、2015 年度からは新たな場所での開催を行っている。

認知症カフェとして「何をどこまでサポートできるのか」という領域についても、京都認知症カフェ連絡会などでの情報交換を通じて、引き続き

事業を展開させながら明確にしていきたい。

認知症カフェという事業を通して、「認知症にはなりたくない」という考えではなく、「認知症になっても安心して地域で暮らすことができる」と思えるような社会を目指していきたい。